『日学連アゴラ』

東海学生卓球連盟副理事長

米塚　雅弘

　今年も早いもので気が付けば年が変わろうとしています。今年を振り返ると、新型コロナウィルス感染症が騒がれ3年が近づき、ようやく今までの生活に近づきつつあるように感じます。コロナの流行は決して終わったわけではありませんが、3年前にはこのようなコロナ禍の生活は誰も想像ができなかったことだと感じます。

この日学連アゴラの執筆を機に今までの人生を振り返るきっかけになりました。

　そして、新型コロナウィルス感染症に多くの生徒・学生・社会人として働く方々にとって、大変な試練であったように感じます。私も、今まで朝日大学で監督業を務めておりましたが、一回目の緊急事態宣言が出され、部活を行うといった状況ではなく、これからどうなるのだろうかといった未知の恐怖に苛まされる未曽有の事態でした。しかし、そんな困ったときは必ず相談に乗ってくれる方や、助けてくれる仲間がいることに救われました。この、助けてくれる方や、今コロナに気を付けながら一緒に食事をする仲間は、卓球を通して信頼関係を培った方々に尽きることです。

　私の出身は北海道であり、気が付けば卓球に明け暮れる日々を送っておりました。生活の殆どが卓球でした。また、高校から北海道を離れ新天地で頑張れたことは、応援してくれた方々に支えられていたからだと今も感じております。そして、現在朝日大学で卓球部の監督をしておりますが、本当に卓球を通して今があることを実感しております。

学生に伝えたいことは、どんなことでも本気で頑張ると、必ず自分を高めてくれる仲間に出会え、その仲間はお金では買えない最大の財産であることです。また、本気で頑張ってもすぐに成果が出ることばかりではありません。その成果を出すために試行錯誤悩み考え、ときには挫折しそうになっても、助け合える掛け替えのない仲間を大学生活とは見つける場であるように感じます。

　その為にも、日々の生活に張りを持たせ、目標に向かって本気で頑張ってほしいと学生には伝えたいです。